

平成23年12月

## 平成23年度 電気学会 高校生懸賞論文コンテストの実施報告

電気学会 電力・エネルギー部門 編修委員会委員長  
松本 聡

高校生懸賞論文コンテストは、高校生のみなさんが電気エネルギー技術を身近なものに感じ、わが国の基盤を支える重要な技術であること、また、未来を拓く可能性に満ちた技術であることを理解いただき、電気工学を学ぶ契機となることを期待して始まりました。今回は5年目を迎え、全国の高等学校13校、工業高等専門学校9校から261編もの多数の論文を応募いただきました。応募いただいた論文は、論旨の展開、独創性、発展性、客観性など幅広い観点から、一次審査ならびに二次審査を実施しました。厳正な審査の結果、最優秀論文1編、優秀論文2編、佳作5編、ならびに指導者賞として指導教員の先生1名を選出しましたのでご報告いたします。受賞者のみなさん誠におめでとうございます。表彰式は3月10日に東京上野の国立科学博物館で行われます。

応募論文は、①電気エネルギーに関する身の回りのできごとへの感想や意見をまとめたもの、②テーマを選んで文献やインターネットを調べたもの、③実験や測定や計算を行って結果を考察したもの、などに大きく分けられました。具体的には、(A)太陽光発電、風力発電、バイオマス発電、海流発電といった再生可能エネルギーの将来性の分析、(B)節電や省エネルギーの改善アイデアの提案、(C)原子力発電のあり方への考察などが多かったようです。応募論文からは、高校生のみなさんが自分なりに考え、自分の文章で表した様子を強く感じ取ることができました。とくに、東日本大震災は、電気エネルギーについて、さまざまな実感を通じてその重要性を改めて考える機会となったようです。

審査委員は、さまざまな発想や意見に満ちた応募論文を、興味深く、また、頼もしく思いながら拝読させていただきました。いずれの論文も甲乙付けがたくはありましたが、高校生らしい視点や考え方で課題を捉え、積極的に自分の意見を述べているもの、あるいは、実験、測定、計算、設計といった自分の手を使って結果を出している論文に、高い評価がありました。一方、良くまとめられているものの、文献やウェブからの引用が多く、主張が少ない論文は、評価があまり高くはありませんでした。

今回、論文を審査する中で、高校生のみなさんが電気エネルギーの技術や課題に対して日頃どのように考えているのかを読み取ることができました。逆に言えば、現代社会の誰もが関わる電気エネルギーについて、私たち電気学会の会員が分かりやすく伝えていくことの重要性を再認識した論文審査でもありました。論文を応募されたみなさんの中から、将来電気学会で活躍するような研究者、技術者が現れることを切に願っています。

来年度は、論文募集の周知方法、募集開始と締め切りの時期、選考方法などさらに改善

を図り，盛り上がりのある高校生懸賞論文コンテストにしていきたいと考えています。来年度も6月頃にご案内いたしますので，引き続き数多くの論文をご応募下さいますようお願い申し上げます。

最後に，全国の高等学校，工業高等専門学校の方，共催のパワーアカデミーの方々，ならびに審査委員のみなさまの温かいご協力・ご支援に心から厚く御礼申し上げます。

以 上